

萩往還マラニック 250キロに挑戦して

H24年5月 柴山 幸博

最初に萩往還マラニックと出会ったのは第1回下関海響マラソンに出場した時の事でした。沿道に萩〇✕△250キロナンタラかんたらと書かれた横断幕が、その時は、ははーんサイクリングの大会かなと勝手に解釈、まさか人間の足で走るなんて(°Д°)!その後縁あってウルトラマラソンと出会い又々縁あって大分UMCに入会、改めて萩往還の存在を知る事になり、昨年140キロの部に出場し、その時みた250キロの部の白いゼッケンに憧れ半分勢いもあり250キロの部に出場しました。

結果は制限時間をフルに使ってやっとの事でゴール、これ程過酷かと思ひ知らされ、まだまだ自分の力不足を痛感させられました。その他クラブから70キロの部に上野さんが出場、見事に完走しました。

当日は朝7時に家を出て電車で移動、12時に山口駅へ到着、駅横のうどん屋で昼食、胃薬と漢方薬そして痛み止めを服用し徒歩で会場へ向い受付をしました。

自分なりに完踏の願いを込めて記念Tシャツを購入し、教育会館で13時から経験者による完踏セミナー、15時から事前説明会に参加しました。興味深く参考になる話を聞く事が出来、雨・股ずれ・寒さ・睡魔対策、そしてメンタル面、誰もがやめる理由を探しながら走る様になると言った事 etc..未経験の私にはなんともテンションが下がることばかり、そして頑張りましょうの一言。

教育会館で着替えを済ませ30分前にスタートポディションへ、ウェーブスタート1組目を狙ったが既に大勢の人で3組目、まわりは再開を喜び合うランナーの方々にいっばいでした。

強めの雨もスタート時間になると上がり18時10分にスタート、不安一杯な私は黙々とキロ8分～9分ほどのペースで進みました。日が暮れ街を離れ郊外へ、いつしか霧雨が降り始め30キロを過ぎたあたりから雨粒が大きくなり風雨となり気温も下がり始めました。レインコートのおかげで上半身は濡れずに済みましたが風雨で下半身はびしょ濡れ。豊田湖畔公園のエイドではうどんを食べあまり休憩せず出発し黙々と前進。しかし、1日目の夜であるが激しい睡魔に襲われ前の人の明



かりが別世界のもの幻想に見え始めました。激しい疲労と睡魔、心には絶望感と出場した事への後悔、いつ膝が痛み出すのだろうかとの恐怖との戦いでした。

夜が明けると少しの安心からか睡魔もなくなりそして雨も小降りへ。激しい疲労感と股ズレそして喉の渇きが続き、腹筋が痛み出したので脱水症状に注意する事を心がけました。1日目の荷物置き場油谷中学で上半身を着替え、靴と靴下を履き替えスタート、しかし、焦りからか食事の箇所を見逃しスルー、その為次のエイド迄かなりの空腹に見舞われる事となりました。

俵島を回るぐらいから自然とランナーの方々と会話が増えて来る様になり100キロ到達、時間は15時間自分としては16時間以内を目指していたのでまずまずの出来で順位は200番目あたり、あくまでも目標は完踏、焦らずに前に進みました。しかし、股間の痛みが、後で知ったがスパッツを履いていたほとんどの人が濡れた事が原因で股ずれに見舞われたとの事。

エイド・CPで休憩の度に足が硬直しゆっくり前に進みながら徐々に足を慣らすを繰り返し、そして2回目の夜、宋頭文化センターで食事なんとも美味しく生き返った感じが、ここを3時迄に出発すれば完踏が見えて来るとの事、30分程の休憩で0時30に出発、道に詳しい方について行きほとんど走らず徒歩で朝まで進む、夜が明け自然発生的にいろんな方との会話が増える。



そして最後の難所往還道へ、途中70キロの部上野さんと会い健闘を湛え会いました。厳しい高低差に泣きながら前へ進むが、時間的にはあまり余裕のない状況、泥ドロの道に悲鳴を上げつつ前へ進む。意識が朦朧として倒れそうになった時、多くの方から大丈夫ですかと声を掛けられました。そこへ折り返した上野さんが追いついて来て合流し一緒にゴールを目指す事に、勇気100倍となりました。

上野さんに励まされながら一步一步前へ、そして往還道を抜け残り3キロを走ってゴールへ。多くの方の拍手に出迎えられ完踏メダルを首にかけて貰いました。

47時間11分と16秒、自分にとってはなにものにもかえがたい時間となりました。心残りは悪天候で千畳敷からの景色を見られなかった事と佐々並の名物の豆腐が品切れだった事、でも初めて見た立石観音には感動を覚えました。

そばにある駄菓子屋でアイスを買ったところお店のおばちゃんがお餅を焼いて振舞ってくれました。とても美味しく正に力餅となった気がしました。

ひたすら前へ進む事だけを見て進んだこの大会でしたが自分を見つめ直すいい機会になった気がします。絶望、諦め、根性、体裁、意地、そして人情、便利になった世の中とは無縁、自分の意志と体で進むマラニック、完踏した時は自分勝手に自分本位でヒーローになれた瞬間でした。

又、機会があれば出たいと、苦しいが自分の存在がそこにある気がします。暫くゴールデンウィークは萩往還へ、そしていつかは橘湾岸273キロ、まだまだ欲を言えばさくら道を走れたらなと(#^.^#)

最後にここ迄これたのは大分UMCの方々には四万十で出会った事が始まり、これからも一つ一つの出会いに感謝したいと思います。

